



上右/右頁のショーウィンドウ左端に掛かっている作品は北川麻衣子によるこちらの《傀儡遊び》。繊細な筆致と、物語性を感じさせる世界観に引き込まれる。ダマトグラフ、パネルにケント紙 112×145.5cm  
 上左/中村ケンゴ《自分以外》 岩絵具・顔料・アクリル・樹脂、パネルに和紙 120×90cm  
 下右/菅原健彦《春爛漫》 岩絵具・金箔、和紙 60×73cm

菅原健彦や木村佳代子の作品が並ぶ1階展示室の一角。ふたりは「桜満載」展にも出品する。



鴨川沿いに建つ「ギャラリーためなが 京都」では、日本の若手作家の作品を中心に紹介している。撮影：大塚和則(外観、会場)

## ギャラリーためなが 京都

風情ある空間で、  
現代作家の作品に親しむ



窓から差し込む自然光が心地よい2階の展示室。1階はおもに大作、2階にはやや小ぶりの作品が展示されている。



**西** 洋絵画の巨匠作品を紹介する画廊として、1969年に銀座で創業した「ギャラリーためなが」は、一方で同時代の若い才能にも目を向けてきた。近年はアートフェアなどをおして、日本の作家たちの作品を積極的に世界に伝えてもいる。2021年3月23日（なんとパリ店の開廊50周年記念日でもある）にオープンした京都店では、そんな国内の若手作家たちを中心に紹介。京都にも拠点を置いたのは、千年の歴史をもつ地から、さらに千年先へ作品を残したいという思いがあったこと。その思いは、店内に足を踏み入れると伝わってくる。

店舗は築100年を超える町屋を改装したもの。旧来の趣きを残した外観はご覧のとおりだが、内部も建築当時の柱や梁を生かしたしつらえ。それゆえか、白い壁に囲まれた空間は、ホワイトキューブというより漆喰壁の室内のようだ。この国の文化を育んできた古都と、歴史を感じさせる建物。そこに現代の作家たちの作品がしつくり溶け込んでいる。時代を行き来するような不思議な感覚を覚え、現在の連鎖が豊かな文化を培ってきたことに改めて気づかされる。この場所は、作品の力に空間の力を添えて、千年先を想像させてくれるのだ。

企画展も何度か催されており、昨年12月から今年1月にかけて開催された「新京都―古都から千年先へ―」は、

京都にゆかりのある女性作家たちの作品を展覧。新京都を「いまきょう」と読ませるところにも、画廊の心意気を感じられる。そしてこの3月下旬からは、桜をモチーフにした作品が一堂に会する「桜満載―Merry Cherry Blossom―」展が始まる。漆芸と日本画の技法を融合させ、幻想的な世界を編み出す大沢拓也。花の肖像画。とも言うべき、表情豊かな花々の作品で人気の木村佳代子。古木の生命力をモチーフにした、豪放でありながら繊細さを秘める作風の菅原健彦。総勢15名による多様な作品が競演する、贅沢な花見の場となる。京都国立博物館や三十三間堂にほど近いロケーションなので、アート散策のコースに加えてみたい。

### Information

住所 ■ 京都府京都市東山区川端通七条上ル上堀詰町265-7  
 電話 ■ 075-532-3001  
 開廊時間 ■ 11:00~19:00  
 定休日 ■ 不定休  
 アクセス ■ 京阪電鉄「七条」駅から徒歩すぐ  
 URL ■ www.tamenaga.com

### 展覧会情報

桜満載—Merry Cherry Blossom  
 3月25日~4月16日

【出品作家】大沢拓也、大竹寛子、小津航、川上幸子、北川麻衣子、木下友梨香、木村佳代子、菅原健彦、智内兄助、松村咲希、水野悠衣、山本大也、吉川民仁、吉田眞理子、ロレンツォ・フェルナンデス